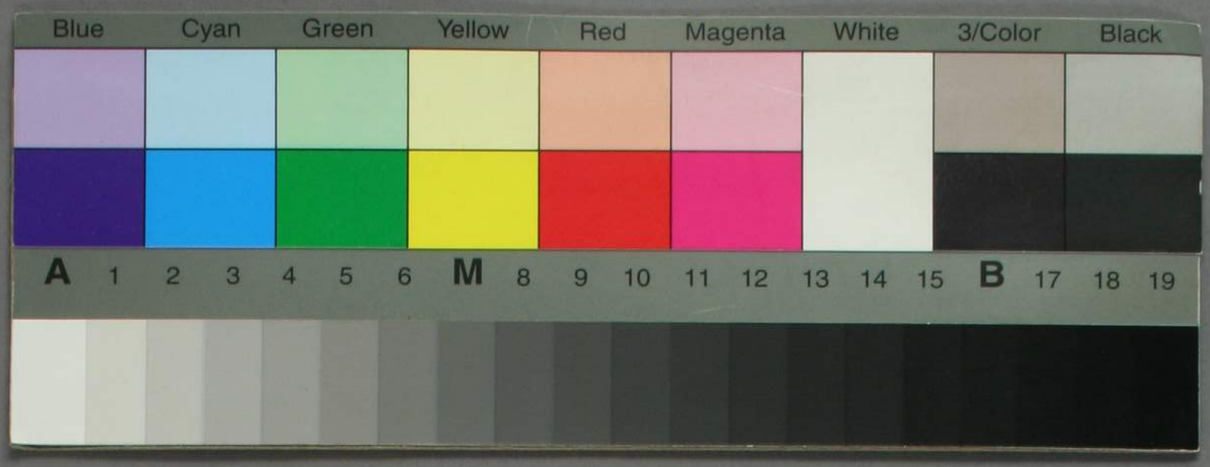
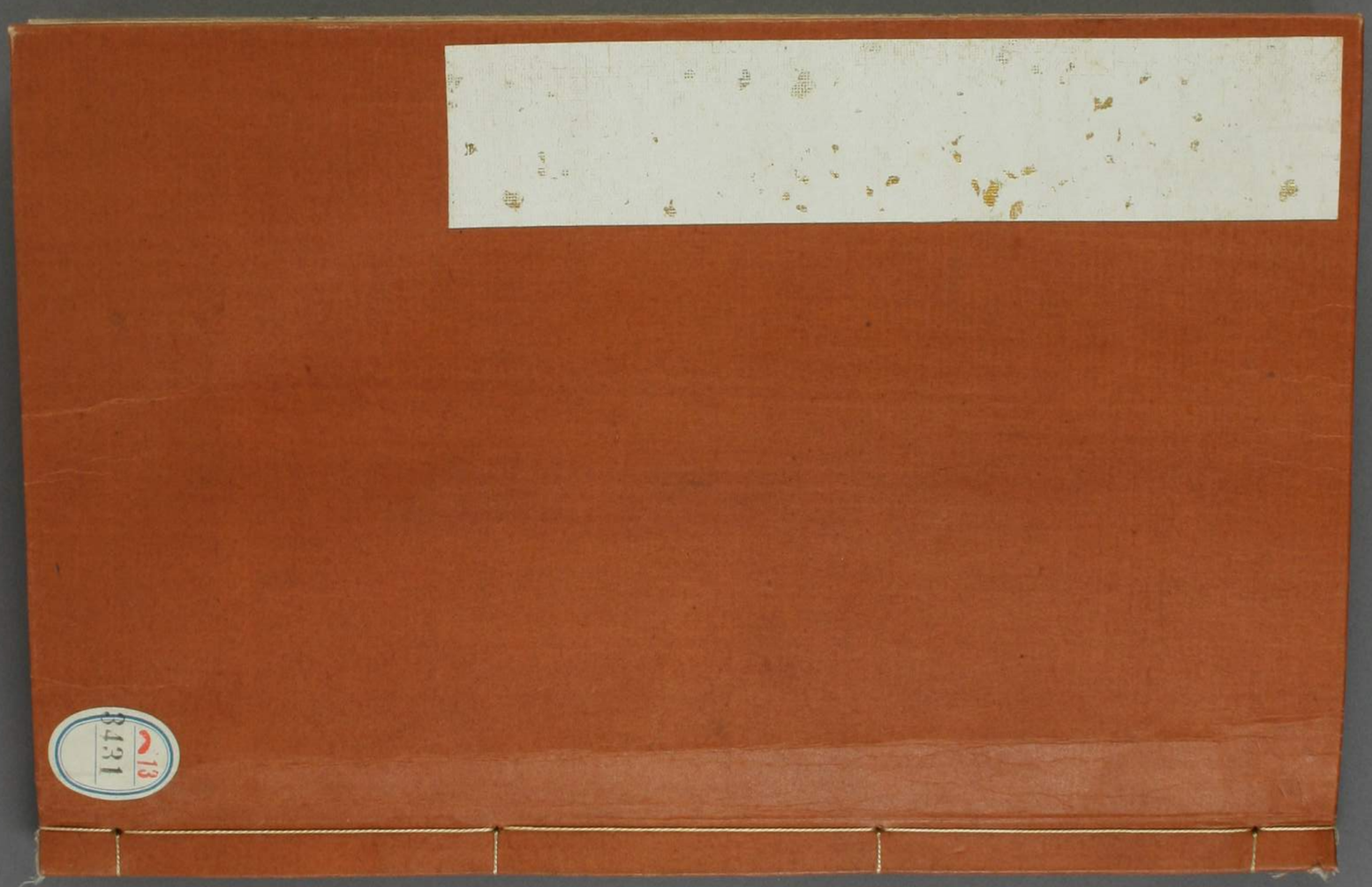

Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19


213
3431

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7

読人知らず 大人作

往古摸様 写本

勝川春亭画

上中下

特
門 へ 13
號 3431
卷

往古摸撲梅若松　上之巻

發端

㊀糸鬢も紺ふ匂ふや風うるる葛籠の中の振袖

人皇六十五代花山天皇の御宇ぞよ。吉田の維貞といふ者に二人の子あり。姉を松の葉姫。弟を梅若丸といふ。又常陸國鹿嶋大宮司の嫡子。待宵侍従之助。任官の事有て都へ登りし折ふし。松の葉姫東山の花見ゆく。互に見そめ。父維貞子いひそ。婚姻の約をなすと。時ふは侍従の助禁庭より預りし。陰陽の奥儀。金烏玉兎の一巻を盗さらさ。中訣たくぞ都を立退く。扨維貞八関東へ下向の節。江州水口の旅舘ふ於て。人志ら二ぞ討ら二々ら二ば。執権栗津の七郎切腹を。佞人時を得て。

松井の源吾自景梅若丸を追出し。吉田の家を押領しく。
松の巣姫が妻ふせんとするを。実に栗津の七郎が弟六郎兼俊い。
若気のあやまちにて。兄ふ勘當うけ。浪々身と成り居るが。
此事を聞よる。やく〳〵忍び入。松井を姫を誘ひ。下部のてい
ふ。〳〵軍助と名を改め。あづまへ下向せんと。隅田川の堤ふ
きけば。梅若丸ふ匂引さるゝ。人買のために
あくるの日さいご。佐藤の助の行衛も知ぬ。こゝだ
松のそ姫。狂気〳〵なふやふ。せんくさるく葛籠ふ入
まいらせ。そこよとこと弥めざし。やがて源吾が方へ注進
するものあり。軍助が耳ふ。大勢ふて追とりまく。
是が狂言の一動。ふ。ぶ怪〳〵の下郎め。毎日〳〵此辺ふ尋ねあるくとの風聞

マアその葛籠をとくまち出せ。中あらたあてせんぎがある。
軍「ヤアらうぜきなりうごく。一季生涯の出奉り時分。めく〳〵に
つかる二合ま。引てつゞらの其中ふ。あけて見せろとあつまるが。
肉ふハ秋のうふ匂ふ。紙帖ふうや天徳寺。ふの切柏ふ弔ハ菓子
それうあのものとそハ。ふのく〳〵ハみつこ。うろんなものでは。
ござりませぬ。「ヤアゆく〳〵たり撲ら者。吉田の梅若丸が姉
松の巣姫。佐藤の助を元慕ひ。氣遠ひとふつかるを。あの五ツが
つゞらふ入てくるとあるくと。性ふ泊を。我も吉田のぞうまつこ。
軍助ふまぎ〳〵あるまい。こまつ云わることふ命のせと。弱蔵にその
つゞらを渡せやい。軍「ムくまつこと丈をきいてハ百年あ。あるぶ弁ふろて
ふんろ「ゆんぞうのそ〳〵ふ「か」こまつこと折てかるてろえ

軍助ひきぬくだんなら。切ころまて大勢が。迫るとゆうじと追てく。

(三)富士筑波のふ隅田の都鳥

こいねがひなく。遠く来たりと。花色か茶湯道具れちうし多年あふたるいもせるる。子細ござ川。ことふるれ名代ござひ。宵主ハ女房のお月とて。器量よろれバ機もよのふ。仁のふ万箱の。いとの車ハまハ並どでも。思りうれる械世学。表の方ろうえろ衣男。ぞろと這入て「ハおさん内ふうせいぶまことふ歌あまへぶるこや。つあふおめにろらねえて。お月ハふもんらしく「ハおまあろ。「イヤきづひみりのでなの。本綿あきんど仁ごろの雨つだ。

綿ぶるくめつきりと本綿の袷のうへ。そりだあうあろぶ。一反でも二反でも。うらんせねう。マアちをいを休んでまいらうと。こゝうちみ。つい「ッぷくいさうと。きせる取出ゝ吸つけて。そろそろく見まハを初。もあさんハ花も紅得ぞ。お月「ホンニ今日ハまさけ〳〵かろねつのふ。ハおまへ入ハなる乱しやう入ハおり立おり。こあろで三人。そ〳〵家の内や人のうわをきうろと。がそんのもろね人さうでろいのの。とゝ人べろるさハ「ナニサそふいふ吉原まもるみ。ぞそんがいうひでろう。あるご天下の町の借家ふ住もめんうひ。きづひみの事ハあの。什ゆふうそうなろかろ機織るも上をさうなろかろのあっ食。そりだあうあろぶ夢てくださりませねう。とあろこふいふそどな死氣をひ。お月「ホンニあろバ

こちも要ねぇよさこいそのへ。もそとの
そでぎこ。表勢よ。子みもさんでうきせてくれどくるもつもぐを。
残も添るもをてで肉の肌さくふさだうれる。その形ふ長居せぞと。
そふふいんでくさされとあひそもなたとぞおも。えつく婦もえ花
むごん。「テモマア都ふ似ぬものうる。おおろぶ仲間のそなーふいその
世絶村ふ西その矢天狗があるといふ。そおるをるれればまく
のる。お月食と名代いふげる。そのやうふ乗見たいそ戻とも仕るハ
ふつまるものきたけ長ふ。それそぐ摩ふ。そこ織がかんぎんされバ
古き唄た。強舎のサアおふ女と。能治の娘ハ月ふ九及のそたを織ハ
サアヨウエ。とにふそこ云ふ一物。お月いおと代
うちえ申り。「テモやまこいんでいあるよ。そこや

日ぎも七のる。こちの人のゆうにまもあるまへ。それふつけてもごん助ハ。
ぞんち代連く。さごくいこあこ。今ふのどこれ何ーてと。乳をふ下く
あるうのごん助。脊中ふ負こる稚子ろう。余云たとひも並木
のこと。鼻毛にあるね竹の先ふ。女んま蜻蛉ひつけて肉くその五バ
お月いるろう。お月「ヨ」あるうよ。昼まくろう出てさたいさ。まこと
そのやうにやんま代こそて遊びをる。考ぐこちの人のいるくふは。
ぞうこんそも阿方ーや。虫けら代る事と云てこをれこさろ。
ご助「イヤこそれいうやせね。け女んまおつこをふつこんで本にこるつて
いる赤代。そうと女んまの肩のあこうけんもき。お月「イヤ何いふやこう又あるう代ご助「モシ
あるるすーやく。け女こそたるすが。そーが編生ハ。こあーにあるこ。

くつあさけぢう買さなぐやの風もいだらう。といさる学をさそ
あぢけば。お月は抱れきのどくに。お月「ホニそるさも去年の冬。伝漂
とあるさる。年云ふ年て。ついそ亜ありたあるといふも。海いえんでうな
あろ。なんがこちの人が阿方よ。たとみよさ。いとさあんしても。ひゃ
西亜な形が。見迫しやうのと。いくばぐん助弟の出〳〵ぐん助「西亜な
形が見こさとふ。あまへもよろぴどいぢぎさるのさく。月「そりや又
あのぜふ。ぐん助「ハテ西亜な形が見込といへば。馬乙でそばを喰あさろ。
吏はそふと。さろきふ旦那さんがる。本川の某所のまへで逢てな。
アノ狸の角をつめたかりこ金。あまり世ぢこをるゆゑ。ふろかりうこく。
海と。そ人形つまて行徳ふ。何ぞ拵て売とのる。月「そりや
綾瀬村の晩日婆さんと女うれ金。借こさて。若労の程。といふく

戈貴もできと。何ぢいふのも一す道理。ぐ阪のこちらへ来うと。
勝手の方へ入わふ。估後ぐ助が今夜八隣の庚屋庚で。日待ぶ
引船の重助と。女ちを妾に連だらう。あや狭村のこそぞ。ある
乃箱ふ立とるり。ぞく「こく主亀柱。今ここで逢て長羽織ぢこ。
大ぜいづ亜。供の男が箱何ぞ脊負てゐたまつたが。ありや何ぐ
ござること。同ぶ主亀「さればござること。ぐ助が今夜八隣の庚屋庚で。日待ぶ
あるゆゑ。江戸ぢうげんしや大勢連て。宮仁の奏ふ。茶番狂言と
やうがあるとの事。庚屋庚八沖ゆきろへさ。ぞく「ハテゐるやう
らへ。百性のいろぬ事。ぜ助「ハテたぐ金ぶりつくと引りおりふて
そありうこさく。覚えまでぬ。主亀「ぜ助そりやと金ぶりつくいるやう。
安間のうれ何。おこそふ私ぶ宿。サアくおそいりあされ

ませと内へそのまゝどん助が「だなさん今うおかうるさまし〳〵たっ。
おっさんのおまちうれ。今坂さんを寐うてそれう阪こ〳〵らく
でいそぐ〳〵。アノ金う〳〵ぞゝァハきまし〳〵たっ。宝亀「コリヤくめつさをといふな。
アレおまへたぞこ盃。ソレお茶飲あげう。といひつゝまバ。だく「イヤおうひ
おさまをする。此間おつこ食おあいお貝ふうまました。おまくもなど
こといつでふのまど。急ふ入用とあるゆへ三十両といふ金をおかし
やすが。證文の通ハ乃くいふさ通り。出さくちんおう呂今うでも。
宝亀「ハテおそまいふ気ちうぶおう強ませう。コル鈍助とれハ
おおつのおそびくいそ。出性やせ。と行脇くおり證文書うち鈍助へ。
何のおんまをも大おぐう。どん亀「サアおぞおさんおまくもろくた
居るさい。アノおまへがの仲判の晦日でおさんう。ちんふ涉さう

欲の深さうなお爺ぐ。お年ハいくつ
六十よ。どん亀「そいくら〳〵仕てる。
ぞへ「ヲヽそおるまぐ年ハ若イのふ。
廿架でもあらふう。旦那さんがお母さんの守袋おるぐう。お月さハ
いくつ。十三七ツ。まぐ年ア若イおといふをきけバ。十三と七つハ
二十ぢや。おまへもおくさんでる。目もあるうぢやな。ぞ「アイ眼ぐ
なった針ぞそれとり。歯も抜手の実まぐらくでさた。腰ハ
動いても金でおくめてある。目出さいおくぢや。どん亀「ヲヽめでたん
ともく。目出さふついでふめでさくなうるさう。ぞ「そ仰おうを
ぞと。扱立祝開て宝亀多をたった。鈍助を味門へ出。宝亀「コレ
動うそうとおいふる。大うの客ぢや。あの女うるる老ふは。

なてごろ〳〵にもめく。いんぎんふ言物しや。さうもすると嬉〳〵がる。ハテ高が女しやそこで金取のくみふ向うてハだなさんのおつさんのよふ言ど。主の事いおみへのふいのものしやとやいひふくなれバ。ぐん助「承知〳〵がつてんぐ〳〵ござりまとと又そぐくおくよる。ぞく〳〵気をくバ。「コレ」酒でもおいのさる事るうことおやてくでござる。何も駈走へいろぬるやぐん亀「イヤ気をくふおるおさるな。何も陰せる事でいるのぐさうの内ふへちやんが一文もるのへ。ぞく〳〵そそれでも今ころの女性ぐバ。ぐん助「サア〳〵よんご詰〳〵。そうを呵このしやもとと物いつる。あのやうな悪者へ。立ごろくたるもくおるものしや。さうもると嬉〳〵がるハテ高が女しやと言ふて。そそとその人おもろてハぞおみへのふ言物といつもおつて。ぞく〳〵ハテなァノ重助さんがや。ぐん助「ヤ重助めがよ。

おまへ様のうちをなたなめがぬうへ。かあめもおまへ様ふ。浅脳をおげやうと。今みへめをさうてをろうる。トいふうち重助きてうれつく。まをさうけバ。「ファレぐん助どのまたようぶぞへ。ぐん亀「エてまこと味つてるう坊ふ味やァがる。ゆうぐいるるまへ。めんどうな丑那面めがやと門へ出ごバ。主助が「コレなとけづるめ已が勿得のことふいつさまを。有のまゝたわうて漆和う。其上に主のうちをあのやうふおうへ意外な事。ぐん助「アイヤヤどのへバうう言と。おまへ様に掌たおつしやるふ。物へ正直ふへとでへるのいう。たつて今のうち人のうちの前でうのうちをおのへのふへとひつけ。あれようおみへのふ言狂へござりまやもとうの主助「ヤイそれが阿房と言ふものしや。そのくをふこちう言ねへ。おの丑ごがやうる奴。出〳〵て

罪と。主の恥をそゝんでを丞。汁よ。おれがいのちを成田。其の通りをせと。目ふとど立てく内ふ入りて。さでお待ぞうふ四五度り主ぜう。則ち為ぜうんも汁通りとそゝ〳〵く。ようく。是で預かる。サア三十両四度〳〵やとそゝ〳〵く。是も七ばゝ。主助あゝこの後取く。主助あゝこの後取く。何をうつそりしてをる。おまでもあげねゝと入ばゝ紙助婆ふ。ちひ〳〵ヨリヤ女いお前め。仁兵ゝうそもぢつくり。主助い乳をいくち。あげやうと。おゝこつけ丞ばゝ。そゝ丞ハ何のをとゝ云。おゝこハ四五度。おちやをあげうとは。おの丞ふいつる。ぜん〳〵それハ何のをとゝ。おまをあげろとハおの丞ふいつる。主〳〵又口真似おゝそうハテ

和とまつこおつじや。ぜん〳〵又口まねおゝそう。ハテおとなつこおつじや。主〳〵こつう乳が遠つくう。おゝろぞうきでござをとそよ。ちがつくう。おゝろぞうきでござをとそよ。主〳〵おつこいおつおの丞ござをとそよ。ぜん〳〵こつう乳がしぶいおい。ぜん〳〵おつこいおつおの丞ござをとそよ。主〳〵こつうがく。トとあどるゝれバ。主助そゝたち。ぜん助ゞ脱ぜん〳〵こつうがく。トとあどるゝれバ。主助そゝたち。ぜん助ゞ脱ひんねぢうひき立てく。主〳〵ぬ給くちでござうこうそゝと。そゝくと跳くそう。主〳〵こつうふうまうぞ奥へおを。たゝとけ考ゝとおくあつけ。陸子押あけ入けれバ。主助ハ起上をぞゞ女脱ぜん拾。ぜん〳〵ぬ給くちでいくふとふうり。コレこうく〳〵とけそふ。こつうふうまうぞ。

なのぶりのふさをるゝと喝きちらしをそく所へ猛と亥ちの豚鼓。
狸の角鳶こゝろふるゝ若ゝ茅ふるゝ門口内を眼そく。角〳〵ヨ〳〵おそく何を
もとうそ小言いふ〳〵。角〳〵ヨ〳〵ようの私へ角そどのゝかゝてのたくこ。
上首尾。角〳〵ユリヤ音たう〳〵と互ふきこゝみたうそのづ允舎。角〳〵そんなろう
家ふまろていさ〳〵ゑ。角〳〵君処でゝと角をふ。あこうたこゝろ紙
おくのうこゝ。立のづるお月が顔。ヨ〳〵ヨるたゝ抱つく。角〳〵ヨるたゝ
さんを。主ある女おこいあ〳〵〳〵の私へ。角〳〵ヨこそのあうた
つまるくいふうど。堪らまれ今そ〳〵まつこ津〳〵やなの主助が
かせぎふ出てこゐる。お丸ぐあてもいんぎん。別膝きり口上。人ふ
ぐろうりおつこせ。エてこるゑ。お月〳〵イヤこまこうるへとさんをゑ。とまこ
ふうこそるをつけまつこを。出舎ぐ〳〵らふ主助が。腟首つうんでゐき

のこまこべつこりとゐのつこ。角〳〵ヨ〳〵主助。ヨれふ儀こと三十あの金。
とるさおうふりに女房をつまてゐのつこ。いやるう宝く金を出せと。
いづこかまこべるを落付。重〳〵人ふ女房もやまこまへ。おの〳〵ふ偽こと三十あ。
出を紙布をヨこそう。角〳〵そぶ改めく結ろりゑ。投
あごそふおかつるのへ。よりあの金でいあるまへ。そこくなつべてサア
渡せ。重〳〵ハテいろ〳〵な寝言をつふ。屋ろう並べて丹せうサア結
これと。紙布のもも。こくるに何の角ちふ。印をもそんで誦る
秘文。おゑや今こ。主の出判。たちまち本性をあらはる三十あの金。
主助おきれく。重〳〵こハふ〳〵ぎ今改めく結れる三十あの金。
国本ふ本のまふとなのこまへハテいぶう〳〵やとおどろけバ。お月も驚ふ。

お月「ヘわんふマア志よさうのなんのなんのまあ。うゝるもあるまい。そんなら奥のそこさんがゝ。ゑゝなんでもいゝまあとゝろをつゝ立べ。角「未のまあ金のうゝるべ。お月「ヘ成程。仕角右ゑもんをおぶるのゝ。城の金を早くも出せとのもうう立べ。さうぬ宝取。「ヘ怪ゝゝをうんてあみゝゝと。せざ立べ。かるゝぞあ奉ゝゝといふ。「ヘ松蔵の主取と。そのんがまあ。ゝ立べ。四天ふ蔵さとそ。是ゝゝ。角「ヘ一指のまあ。ある。あゝゝもその外ふさうがとも。マア茶でも一ぷく吞ませう。角「ヘ茶呑ませう。重「ヘいつぬも茶ふもるゝ。さあふ宝子茶呑のもとふ茶よもるのゝ。今ゝ戸焼の火鉢。コレお月「ヘそうゝゝまゝたとかゝるゝ。自在ふうみゝゝふる釜のゝ。ねのつるさんをふ。

さげて火ゝ鉢へなるもそふぞ。重「ヘコレ月毎ゝ角右ゑもん。茶ふ隠逸を専とゝ。唐土もそふ陸羽とゝ。ふ武家の貴人ふ勿論。庶縉の僧ふ茶ふ。自慢ふもふ道。古びさ茶筅も南蛮の茶ふ合。ふゝさ捌ふ麻ゝふさん。お月「ヘわんふさゝゝゞふゝゝ深ゝゝ此柄杓重「ヘ鮫川ふ上容ふ三ゑゝだのあう宝ゑの金襖ふ。花月庭鋪の共結構。角「ヘるふぶるんと重「ヘサア床うけりのゝ墨ゝ硯ふ。是ゝ仕ふゝゝ。狂画の達人のかゝてこの扇。ことぬきゝ花ゝゝ。たゝゝゝ狸ちゝゑ代ゝでも。

昔ふつけく狐香合がある。コレお月その柵のをめつくまゐと。
コレ角右ろう。なんと幸なお。昔ろハ狸の香合といつて古道具屋ふ
いろくもあるものぞ。狐狸といふきハ
化もの。それぐやおよろく。百杖禅師の野狐のこうあんかも。五百生が
間。富坐ふうまゐく。漸ふまの周辺の教化ふ依く成佛〳〵さと
せう。近くハ蔵林寺の古狸。そろ〳〵のあとハ文福茶釜。おゐ〳〵も
狸の角右ろう。たくろの尾尾をモウおゐ〳〵さ。角〳〵イヤそんなもぐ
うくハ幸ハろう移く。主ゐおゐ〳〵も幸ふうろさ立て。いろ〳〵のうハ云
をつふ。此角右ろうハ幸ハきろのぐ。胄〳〵ハテころの人のお紅梅の記念ふ
湯のおぐハあふる。モシ釜成おろうて笑をおさんせおう〳〵〳〵お紅
く此香合ふもたき物ハるの。さろく幸ふろ合さぐ。ヲく幸ふ

松をふぐある。お月〳〵あんふそ立ぐようふござんきよ。ころぐハ松ハ
緒士のたくおふおろ移ども。お月ふるぐようくものて。おろうふそ立ぐ
清あの次井。主〳〵誠ふそ立よ。かろく山の此石ふ。まさ八重弾の
こぐをりつく。まつこの女うに西慶を拝つと少をうろつけ。附
おふうろ〳〵。松をあくつけ立ハばゐえころけつこ。ふぎやたりの角右。
五さの一度ふろうろむそ一様。頭巾うるぐう。髪さろだち。そろくと
たろくる昧の怒の形相ろのも怪〳〵と立よる主即。指切る拇ふ
角右ろう。包〳〵鏡をさうおとそ。主即取て拭こと包わとけば。
名鏡の。光をおふ〳〵ぐや宇宙ふ。隈なく当る月の光り。ふと汁に
女房お月。かくちハきえそ失あろ立。重〳〵ハテ必ろね。日をあ山ふ
かくもろざるに。満月の光りの此ろ紙おろうせば。かくちを失ふ女房お月。

鏡のいとくう良ふ。角「月の兎ハ雄なり。世の兎ハ雌なり。かるが故ふ月ふ孕んで孕むといふ。重「まつこと。兎を籠中ふ入ル。月の孕り給ふる時ハ。たちまち共雑ありとなるとの事。角「たとへ妻ありとも婦人脱兎。重「今良家の仕ふ〳〵。扨ハ吉田の家の調宝満月の鏡あるとよう女房お月。重「ヤアそふくそこふおおあるとおどろきるのごう。「何ハともあれ角「イヤお止よふとおが分の上。往昔の仕儀を聞とくみれ。禁庭より召ある孝行者ご。ごのみ〳〵今のそごといふ。其上お止ご仕ふ〳〵三十年。金のそむまぐお月を人質ふ一ぷふ

臭ふくこのとおつさて入ル止ご。世界広のご身のせひろくも。ちごく〳〵今をとる北が。思案をきうの金鬼ハ。戸棚の内より一脇ごり出ル。行さご合せてかけ込る所。扨ま何ごごござごござるとそ〳〵さご止ご。重「イヤ〳〵こるこの私ごやあへとふりそるをお取ふとこぶ。そく「扨もこのこ仮ご夢まく〳〵。此そこともほ家来ぬ。中上るま細あり。コレ佐ふ聞被。イヤサ〳〵ふの事ハ中さぬ。まづくこれへと上座へ据ル。ふと毋ふをつき。そ〳〵ごみをやさぬハ。四ふ審ハ此ぞこハ扨をおそごてやさお方が姉でござりまそ。ヲヽ扨〳〵。学陰の画鹿ぬくハ此道理ぬとおまへそひやて世を年ふ。弟ふのそまごまる。風の便りの傳守ハ御家の

強勒。妹お万ハ忠義の厚ふ舎紙をそて〳〵との唱。それが城でござりまする。
以上ハ姉ふたりまでう〳〵。お万ふたごゝんなうされまするな。あるところ人買の悪もとの法をおこなひ。宮芝の舎もの紙本のまと也もかれが邪法。重〳〵叔ハそのうつくしうぞが婦ぐくあつて〳〵。金百両の一巻。紙手あるの。その盗賊のまづり註義のこと。出行〳〵が。何のくさぐさおや。三條油の小路ふおおてあ〳〵そのさのごときくようもぞくいうのをうるのこと。「ヤア〳〵そんなう誠でござりまするふぞんなさのごをいたしまするとおもも」まぞ泣なさ。重〳〵くるびきふことう。めうに入ハ角右うめ。岡おうぶ狸の術。大神みそとうに入紙術おそ。そのふかり金子まで。奪取〳〵お金。

鷺馬大人作

往古撰者若松

春亭先生画

中之巻

とこぶつ神祇ばへ。そく〳〵イヤその金をまうそろくござりまし連テ
又そのおろことといふ。そく〳〵サヾバのるす外でもあいもまへの女房がめいわ
さへ。サゞつくりハ先。お月といふ世をおのぶかりの名。滅ハ吉田の
松の葉姫。よつぐ葉つく吉多へ喜て出ばへ。百ねんふいぢな代物
其よごぶんものこそ。一まやこまあいかそ進ぎよ。あの女ハめらふ
たぐへ。重〳〵スリヤ今お方が姉といふて
笑てこゆへ。だまして奉名なのこせてのごや。いやといふとお客者の
待後こ泉。首みてそうびおる。サア。いやう。そふの返答とそみく
宅へまた出ー。や。と勝をふるお今ふ出ず庖丁。逆まわして。サアく。
そんとごや。エそめんぞうのと。つきうる。あゝらふ事もまきそく。
是非みあうぐぞ一刀。そく〳〵ヤレ切くへ。と大琴の折を陳ふ菜番

狂言本敷の音ふまぢとしてゐるんるのく切ふせさゞめの双うしろふ
何ふ角右ふ人ごゑい結婚の風。代官丞へ注進といふ驚き
切うゑび。又も合掌ひふ秘文。眼らんでたぢろぐ内。角へイデ
武通り注進やい。ざゝきろくさ結婚かと。
峰ぢりくかけつぐ。此場をのがれ逃て行。
㊂お賊ふそふ〳〵恩愛の子別ゐ
袂を涙をきつ
物音聞つけ女房お月。立出ふんゑび夫のゐ様。コハ何事と。
氣なふみ。ゑいっみと弱ゑびゝ。宝恵ハ立よう。宝〳〵そ留や。
邪法ふ眠らうとう。ぞくまでも。とろみ出を。月〳〵コレまあ待ち
まくまあんせ。宝〳〵イヤくあとあやまもあまくの

お宮。今うち身ふあやまちあらば。誰を力ふ宝の証拠。紛失
なくる二ふを。ゐれ出をその内ハ。おとゞめ待〳〵日数の我く。
一先此場を立退て。時を取紙待くく待宵の。御家祝ふ
重〳〵成程そのいつふ。角左ゐめか今の
訴人。りや捕手のあるうべ。お月〳〵サア其時ハ是迄〳〵ふ
ごゞを我身ふ引結。君が一月の情ふハ。百とせの命祝捨るとも。
叶ふ時ハ。重〳〵アノそのくぶかもつて居るゐ。お月〳〵ハテたいせつな
おまくの男のよ。重〳〵そなたこそ
早まるふゞくるの。取る袖もあるうべ。ふさび世ふ出る事も
あらん。ほゞそふそこハ。名月や。よで男のよ死松のこ娘。立のく

用意と侍従の叟。そこ成の
サア是より芦屋の道満。大内鑑。第四ざん目。浄瑠璃始りと。
其子別也も今こゝふ。お月が思ひ二面。うつる影さへあるれさよ。

浄瑠璃
妻へおとをうたわせて。ちゝ
おび乳房をみお抱
立てあばゝもせびるが
もの丞とお性わに
おねおふる父
よろこるもかそぜ四ツ

お月
三五ばかまとゝ人間るこ。三年いぜんもさに野ゆて。角右ゑ

かりいざさ丞。ゑる舎を仕
萩もそろ。お寺ちろ兎ぞや。ゝのちの身の死
松のまお姫のもごとるん。いこそふ其内か。

浄瑠璃
むそぶいのせのわいぎ
大ゆさ大物さ悪病る
ここにおとゝ成もうは
のむつごも分の床をう
可愛ふうせろう今わるこ
ゝ松れまどの

お月
松のまどの成ちんごの母とおりて

あぢそまず。だん〳〵成長するこそも。さるあづれうつ円とやも。手習
学問せい出ざ〳〵そさもづ父のつみ極ある。きようのものとろめ〳〵まて
たりまや。

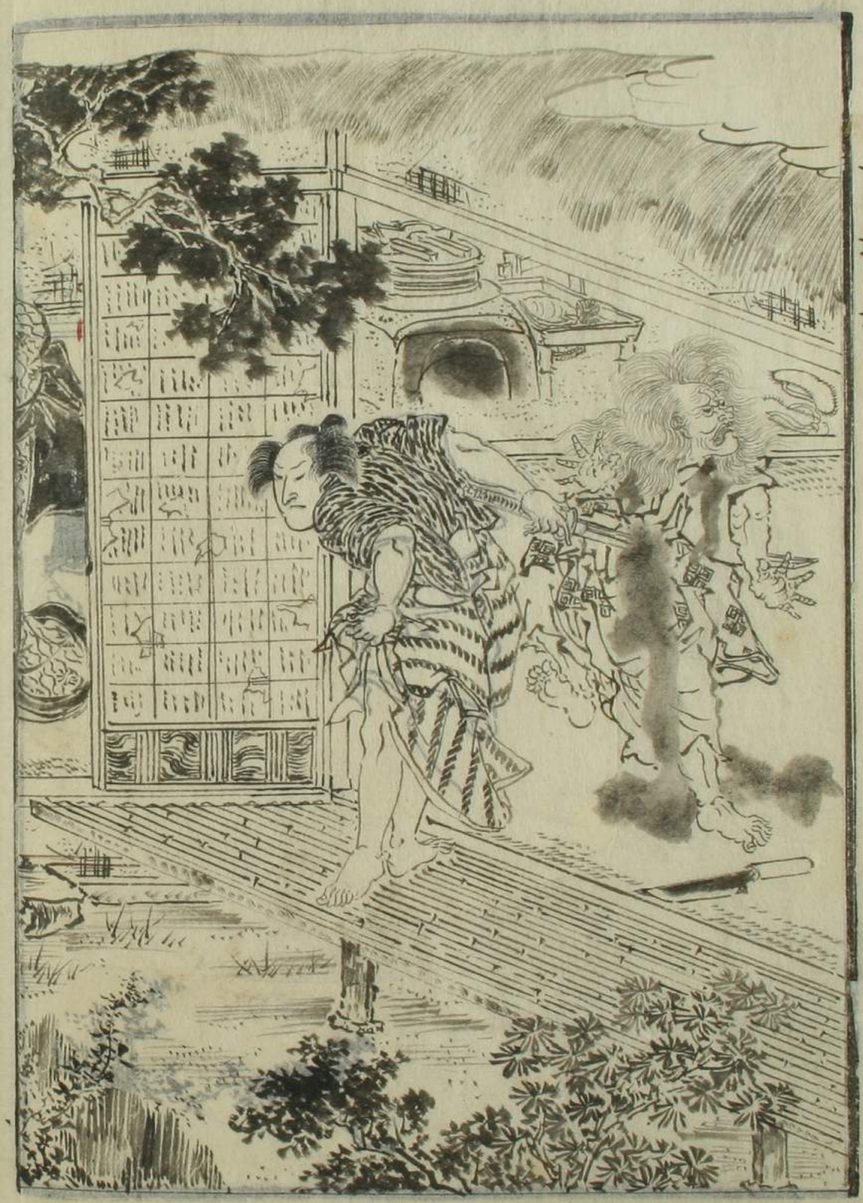
使ふもの
「何ぞさせてもらわねばならぬ程ようこゞのつおやめと人が笑ふ
ぜ」いふて母が名こも惜ごとおかるもの〳〵まるほども母そるつのび
身の程わきまなぐまめのべ」といふものくみりまそ皆が恒こめの
ふ名あまそやのとそや雑ぜこのまこと抱あげだこうこ抱
ふもおいぢとつとなくこゝろおもう紙一下皆紙そ〳〵宝出

車
「きさいきつて。何ぞあふ幸手紙をそ〳〵ゆべきぞ。

使ふもの
「そそのいぬどこをつけばいゝ幸手紙そそこをそ〳〵ぞは

きつそうせふけ宝。

折〳〵下級の軍勢ハ。忠義みおりの中。松の家姫死
脊負つく。きろべをたづねそこゝ宝と。其ある門口。縁の端内を
いくまぞ。始終の往来。ハテいぶつ〳〵やと立留〳〵が。氏体見るよう
そ〳〵さ入る。又もおどろく体振の取。「ヤア兄ぢをれ下級との。殊
あんなのもなく。内ふ入〳〵ハ軍「成程ふ露ハ出ぞ。下部めハ。
吉田家の下級軍勢と申者。四上ぞの折ふ〳〵ハ。主人方へも出入
由え。扨者ハ出家なぐ〳〵まうろ在る。下部の事ハ出ぞ知りの筈。
もぐもあらん。主人維貞公ふハ。ふ宝の役めつき。御家ハ没落
梅若君ふハ。あづまへ落りのべバ。松井の源吾ようこのふ中あげ。
家国を押領して。松の多ふさもふもこの宝養。それゆゑ扨者



山供や。さうそく當地へ下ると。仕組みうまは人數ふ勾引さる。隅田川のそとうにおゐてあくるの四ツ頃也いさ〳〵も未明の四ツごんふ。我ハ都山白川の吉田の梅若丸と仰せら〳〵と。あのもの物語。何ふ梅若ひとりの事。エヽみつともない人數ふあ。そもつともつとも人の子なさる梅若君ふお別れ申さるゝ也。御心中さうもつともの事ぢやなれ共。お渡しやさ共上でと。人目をうく次第の内。さや源吾が方より母びのおをつけおきやるゝ。此間隅田の堤にて大勢ふ取まく也。もでふあやつき示。やう〳〵切めけまつり〳〵ハ仏神の加護哀れ四ツ頃。明る急ぎの床〳〵と物狂しき

おもふごとを四ツ便とも思召。いざ四ツ對面と。當笈のふさあける中より松の葉ふ姫。もつまつうやと仕ぬさる。やうそハおくびきてまつた。コレ笹風ふ〳〵な事もあるものゝとの河ふ軍風ハまさびつくり軍ヤアあるさハ四ツ本ふおもふりるさ也ほたゝ。といふふ松の葉されごハのふ。つゞらの内であるさの御袋。笹をとつく嬉〳〵さの。耳ふあるされ共ハ仏像のやうそ。アそうじやなのハさもあ也かくもあれ。さゞうをもごさとるり。自が名残のりヤ。うんでめつひ〳〵仕がんふ。さりも恋さご我ふおもふりいま仕舞が名ふうそいとゝ〳〵がる。

重 そもよの恋と花の咲ハ松坂の風ふさごろあげ。

たとへうさごの名ふりともりのくあるされを志ふべさそ。二年

三年つれまとひ。舎の男を頼ぜぞや。いそんやるまで設け中。客を奉ふもちくうと労のそづう〳〵かるぞ。ヲウくとも相対ふて。たゞひふ合点のその上ハ。笑もせよ泊もせよ。そるのちハ女房よと。おいの一首せうた。

童子が母よ女房よと。おいの一首せうた。

亜　亜〳〵くふたゞれきそ月よもの

重　梅ハ一首のうくゝをのこ〳〵。つ丞ハ世迷を捨て迎ふれもと

　おゝぶとも。童子ハ一ふぶんおもひ出。我ふるごろハ

　勇たけき人者ふ出。狂乱のごとくかけめぐる軍鶏松のそも。

　後ハ一首のうくゝをのこ〳〵に紋るく軍鶏松をごぜんと。

軍　ヤア〳〵ふうくゝをの侍従様。老ふ松のそふさうで。おくゞぶ立人ハ松のそふ様でふござりませぬか。そらきそ〳〵よとよみた丞ハ。いつでもむさ〳〵のくさえゆけバ。もあひるさるふござりませぬう。そハ未熟そ。

　き

と皆ようう伝兵へ「さてさてこゝそく。三條油の小路油屋の揚ふ
あのそ。お方をまふう迚いちあ事。如何ゝゝ仰合ゝそこゝそ
を切こゝ。扨迚うけこまのこゝ次第どのやうにひつけ
けおつけあてこゝ本綿ゝひ。のこゝ取替をこゝ宝助をこゝ
そこゝできこゝそく。扨い次第ゝいねとゝつてうせこう。
うゝうるくさふぐと。鼻の穴へ当びをつけこんで出ゝつゝの
皮をこんめうるぞ。あゝ「ヤァゝゝうゝ二合半のをゝうまいめ。
つゝの皮をこんめうゝく。うゝいまあ何のまをる。軍「ゝく

つゝのかゝ或こんめうゝて。お報ふそゝて。とゝの加賀ふぐんとゝる。
又ぐんくのせめぐゝのこ。さゝ
あんぶ。ゆこゝうふ切きぐあと扨迚刀鉄火鉢で待。そぐに同
つぶゝうゝつけゝ玉。中のまゝ八蒸肉も食大ゝと逃出せば。
いぐゝこもと迚うけ行。重「コレく宝助なのかひもろう。と乳
をふるもぐんくと。周近ゝく少ゝゝ迚く少ゝ報。重「扨い我を
こうゝこむよせだのこ。ぐん助「イヤおきづゝひゝされまをな。アノ
たのこい陳の在所ゝで薬毒狂言がござりまを。と奥より
うゝうゝぐん助が。常ゝい仰ざる利口ぶり。お二人りたふ大ゝの
清兵。今のゆこうぶこうてうくこさぶまこさめんざう。ひとまづ引取
ゝ立退と。こゝゝあふ伝兵も。「なる程くゝ玉ゝより委ゝ武義里へ。

松の葉「サイナそふうとても一度ハ。勇ねあらねバうるふね義理。
そんなうそんぶん助。あとかうそ
るくるゑいぐく母。父うろ
あくく行。

㊃ 阿房も時ふ藍うる茶の色揚

うえうろ
跡見をうろく鉦助ハ。「サア岂でころが落つつ。アイヤまぐさ
ろそうろでるい。大ぶんそろもちつのた。そこころに行のぞふ物が
とあろうさぢて。「ヲくあるぞく仕事箱ふ。書深ざある。なんざ
芋にゑたぞうぬ。ぜんまいのみつけもうんとある。ちようとつまんで
ゆうろうう。イヤまぐころふ田螺もある。こつを本の芽あへふと

いふ事ハめんどうなり。まぐろ合の蕃椒ごそでと柳うろ御を
拵ふ鉢。そるうちゆ〳〵ゆをう一下ろぐく金会たうひもるたあへ。
取ろうをあへぶふぐのぞのそ苗口「コレ勘八宇ふ助めハ宇都栄
ごもにろまろせ。ぬけくきろちの計略。松の葉沢ねつろ
つく。添者稼へ渡して褒ふもる。勘「ヲくぐろてんざ去なぐろ
仕度の助がゑふハろうのと内をのぞいて「アレあろうめが一人
行うくろてあるぞ。あつろもさいまひひのぐくるのくまく。
コリヤヤイあへの女ろふぞろ人逃〳〵。まろをぐにゆうせと大
叔あげふハぞ。「イヤぬろそ叱へうまの物。そ母く唸ふと
つろころむ。「ヤアあの通ひとり上ふとの女ぢろ人へ
よこせ。とゑつろう。「サアこれこそ。と二人りしてそろ八そのの

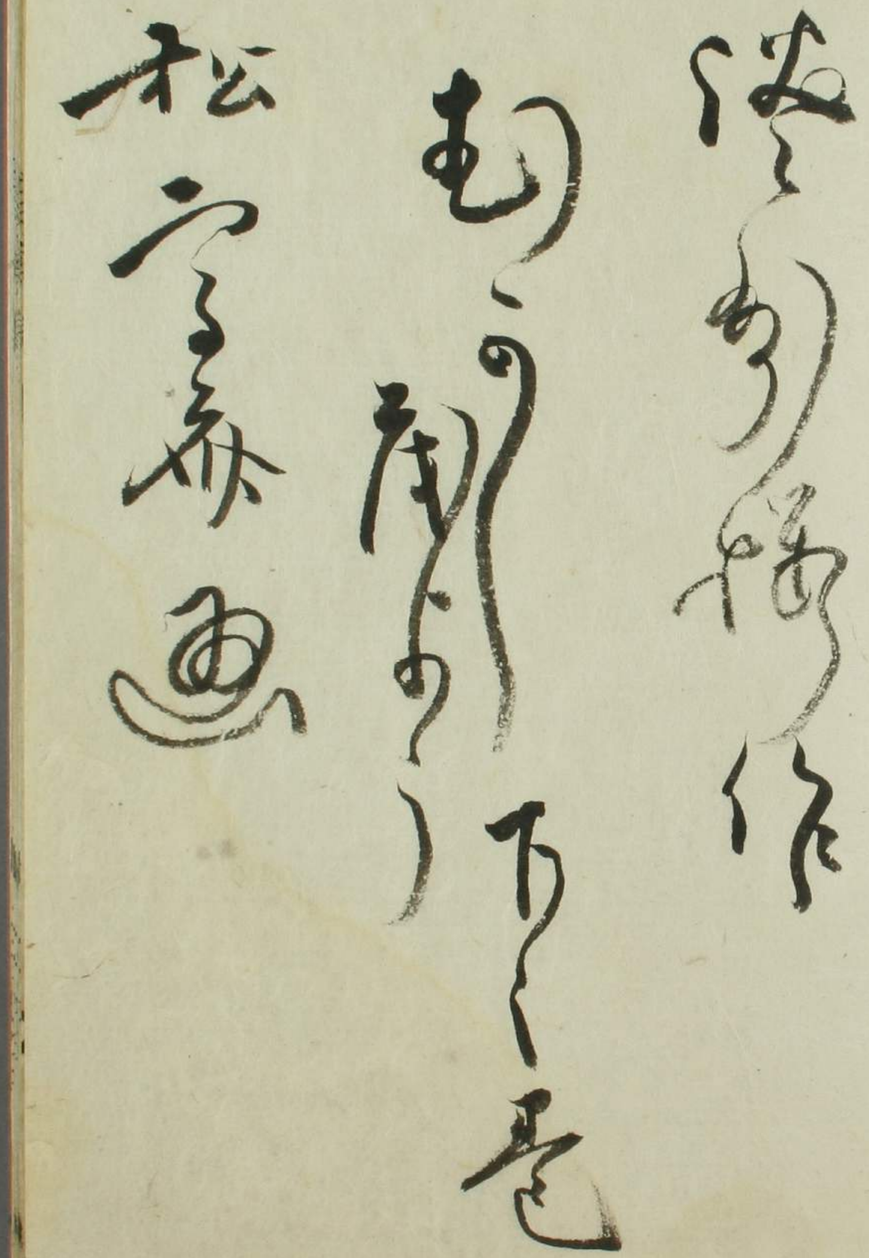
あづまごひ。中ふも勤八新ろうめ。爰へ今宮助めふ火弥を
ぶつ狩ら丑。ヤけどをした。大ぶん痛ろうまして来ろ。なんぞ
奇妙る薬ござりやとめづけへ。ぶん助へその外ごふかう菜。
さのこひとふ赤かうゆく。ときくようり勤八あづま客。へそれへ
生ろ。サアとく。と大そだねけば。そりそろそろ。皆ヤへべくく
せろうも。賞ろうね。駱駝。爰へアくとりや右ろるくあつくく。
こたくら丑ね。コリヤ何とつふ妙菜ざ。ぶん助へハテいさゐそろゆうを。
もろくそのこうがらし。爰へイヤ左ろうぬうめ。ぶんご見ふ逢せる。
サア持ろく助松のふぶ切ろ。まつをぐにぬうーゆあづ丑。とあま
をとればふりそろひ。ぶん助へそろがようくろてこと思つて生ったら
ぬうーゆあづ丑もそろゆ。めつくふいつてたまるめろ。無弁ふ

せろ爰へ豆腐。うねろぶ山ろう里芋の。ゆころ迄ようそろころぢ。
ぜんまいこもんの吸の種。ふーめをられさ重箱の。い丑物ぶんせんと
いつまくふ。より様ありとりめつてこうちうち。あーらいうねて無生を菅内。
のごさーものとありつけ。さういさ弁ぬうーもさぞつづけうち。大智ゆげく。
ちぶんで向のへきねうぎ。おそーもさ丑。とあくおとぶれたそ
爰へコリヤ菅内。ヤレ新衆どもそ
さそでと。ひ弁おさへて猪ぶつろ
ろどのくひへ指業もつひ吾辺あ。ぶん助へハテ何そ。爰やせん。
角やと見ゆを内。爰へ大智の次弁ふようる志ぶれぶ忘。
ぶん助たくく。ヤるのぶあ。ぶん助へハヤア成程。アノ志ろこそもゆは。
水金ぶそろると仰てこぶ。吾こんぶろもつけ調法。智のさてぬ

乃理ぢやなといふ間もなく頭をふるも右左あまをあげくさどうたぐりくとうぞう。横ほを打て。ぜんハヤア寄ぬ〳〵。人ぜんまのみ〳〵あをくひ。お弘を呑ご。ゑゝだのかゝうそ大当。此乃ふ二人のほ海をさび服充でも乃の刻ふ。そ丑と二階の梯階子かけあがりて戯言。サテかざりおもまたるでくのぼうふ。芋くひ放屁の玉とヤス。不細工ふござりまも。口上ふ陸ひ。人間ハ此そ〳〵どをあげりまもる。ぶ〳〵ふうりの〳〵俄ふござりまもをれバ。イのとぎ〳〵どざりまし〳〵ゆうや。まづ氏方よろそ〳〵みまもる人間ハ。たりのそろ紙そこび。まもる。右りのそろ紙よろそもまもる。とうふ勘八もう昼ふ。一ざん二阪。ざり〳〵とあ田ご落ぐと見そ〳〵が。

あまをあげてうしろさるぬ。ふる反梅ふり。昼をも空ふ六ざん返り。ゆんやく〳〵とぜん助が。つねふ阿房も時の奥。智恵もなけ田の細工人。まをにぜんまのお紙の。働きとこそ志ろれさる。

往昔摸様梅若松　上之巻終



詩海梯航 往昔模様梅若松下之巻

寛政二十丁

鶴金版

晋翁

往古摸擬梅若松

㊄ 懐の一巻ふところのひとまき

花曳ハ江戸紫

時代ハ名物切

吉田の家を横領して。此度東國

武蔵野さして来る

妾に松井の源吾宝景ハ。

下向をさのことふ。松の乗

向のく。是を同じく一つ穴

小姫をぐめ。角〳〵コレハく源吾さる。兼〳〵山頼この松のそ姫。

侍従く取もろとも。下紐の固世後村といのふ思びをる故

いろくふ手段をいくく。ぞ

思ひもよらぬ。此若者が狩ぬ

長のうち。ふ〳〵なるとやさうろ。イヤ若〳〵誠の松のそ成。軍助と

いふ奴めが連ありて。佶友の恥法とも。此もさ〻への弱くるとを下の者どもが。浪進ありる。さんそく四旅宿まぢく。お知せよ〻源〔サレバ〕くそのおさ〻せ成ゆとそみく。昨日より家来ふ云付。を在くれおぶ丸のめどりをうたくひ。ホくそくそ景逸どの。勅勘流浪の身となくうそ拙者が片腕ともなるゆへ。お頼こやく〻重叶ふと上ハ天朝へ十立。勅勘浮鬼ハ十源吾が佶合中を。下を奴の軍助あ。供をして〻よに佶友の恥をおころを手助が出たの。お氣をひあるる。コレこゝく。と耳ふ口。添〔イヤその氣は我ハ実ふ有仕。家来ふいひつけ取くた依怙お客を宝めん。

角〔ム角右衛つハ手の者ふそくそ。知丞原野乃くあぶ丸出〻。添〔コリヤをと言〻どさ〻丸そうなづた。苔をそゝき。鬼ゐとこちやあふ芸尊。思ひびくそこいまちあたる。武義助ハ。〻のふ〻そもちの丸う。我〻とまこ。弱ひくそくふ佶友の恥。松のそのりろ丸そるく〻と。そ丞そと知丞原野乃くあぶ丸出〻。あまふ私が脊ふちろうとゆひはけくあるくた。あむぶうもみさ丞でど。さんそふ〻そやく寝。そのうへふ乳いる。水飴や白雪猫でおそでそやいあのそ〻。サアその乳も。あちこちふあるそもひそ〻ねりの。そふお頁ふうんくそるうそ。ぞのぞ世ふほりしやとのる。軍〔ハテそふ自由ふいうませ成。と笑ふを出て佶友の恥。イヤさぶ芽の図さへ自由ふあるね。折もをうとそ仕徒より。頁がかそもと

思ひてあそこ。メアハ一向ふ見えぬ。是ぢ雑目と毎うふ
おぐくうるあろ。アくどふぞ日のくれぬうち早く逢ひさの
ものしやが。俳ふ思ひ出をもそやむ。東山の花見の折ろ。
ふと馴染〜ゑえふこて。毛ひふろる憂目ふあふも覚悟
のまく。そろく只世中た。欲きふ花びをととむ並バ
こそ。なぐれとふるる。と俳〜も今の月の上ホニさうで
ござんをとも。おまへお添さのくと。男ふうち館の強勧。
松井の源吾がもてんの意慕。そ並ぶうるさうてあぐ多く
ぬり。おぐるひよ。拳ちぐひよと。人ふ笑う並恥〜の仕度ア妻を
今らみてもうくぬ。此若が出世をまちや。又ふみもあらぐや。
先さ〜あろくてまぐ来て。弱ひ毛ざんれん。行時も

いそぐん軍助。と彼うこ並ぶ恵ハ何国とも。知並ぬ曠野ふ古並ぬ咲。
秋の千草れうれく花。そこよとてよとおゝ〜ヨけかきうけ。
童子が母やの松幸子の母御の
大勢の。谷響ふつ並く四方よう。てんまふ得物ひつさげて。
のうさゞ〜ゆぬとおつとうまく。軍
ヤア何かうる並バ狼藉。まざ
そろぐるので切り。とわめつくれバ
旅人の物をあそふもる盗人ざ。
のこゝぞ踏張もてんまた生せ。軍
ヤアわゝ〜たり牧さんが
めう。つまこころ〜てくる並んづと。
二人成うゝまのぎせて。軍一足ぐハめんどうしへ。一度ふ
こいと。大事をおろげ。いきうひこんざる西撮へ。長阪坡の戦に。

幼主を助け〳〵趙雲も。かくやとおりふぞうりう。（奴こま平）「ヤア去ぬろ。そこ
ゝこの二合半。それうちころせと手くかる敵つんでそのふ人傑。
そこるをと投たまふ〳〵。手ごろの松の木ひねぬいて。薙りちれば
大勢が。「コリヤうるのふねと逃出をを。いづくまでもと追て行。
とるのこのうようふ大勢。のごとく敵せうぬと。そうまけば。うねく
たゝ〳〵るのごも。弐ふあ〳〵らひ。まゝ〳〵逃。そこともおもはぬ
廣野原。これ〳〵そこそこれ行。ふ松の葉たぐひとう長ひひ
曾用。そのうめどろ〳〵と。あせるうしろへ松井の源吾時久生
ようと立出ば。松「ヤアとざうふ逃んとする敵ふとう。
源「ナント松の葉ほどは生まつの。去る頃ようあづまへでる。
氣をひとろゝとゆる〳〵が。佐渡の助が敵をうく本性ふ

成ごのう。ふさび東國下向成さるとん。あをへ入て多しゆ。
何もうもろのゆゝ。けふ此處へまるとの泊進。先ゝまふろく
佐ぶせ〳〵て。侍従ふ取もたろうて仕舞ふ汁畏。ろんぞ
るのこても叶ぬとおもふ。ふ此うふ迫んとする敵ふとう。
国の内。サア一ぬふ。とをを振拂ひ。松「そあふ迫い
そのつゝ何ごや。主人成さるとも。ふ吉田の家浪落。切ぎごん
ふろごの人畜生。おの此ゆへふ吉田の家浪落。切ぎごん
でもあれたゝ〳〵ぬ女ふ。ろんのふあふふろごをふ。それふ我まゝも
庵つていくごさんせのご。軍取ハごふし〳〵ろる。とあせるを捕て。
源「ヤアめんごうる女め。このふ某ごが旅宿へつ立てゆけ。「カヽま、
まろゝこと。家来共「立りんとをる所へ「まて。と一喜ふより

かけ来る鈍助が。さくる女ちそりの下駄の音。仁王立ふつゝ立ば。妓ぶ松のそふもおどろく源吾。「ヤア軍助あとおりひめの外。鼻の下の糸間なからう。うぬハヤアごこゝも生てこそん「ごこゝも生てことハ。天ゝゝも降ぞ地ゝゝも現ぞ。お宝ゝ無双ふぬゝゝのごん助ぞ。軍助と一双ふ出るとあるが我ゝ我ゝが主ことめんどうな。一人りつゝ出てこい奴。松の並木をお供もろハ。源「ヤアごんざこるげを奴。そこちさまとうろうろする。梅ゝたる一ヶ巻をまろ「コリヤ弱る金烏玉兎。とゆう男もそもくでぐち懐中し。源「イヤそんな物じやるぬ。いゝぐる女共さゝ出ゐ。と往めつゝ出ばごん助ぞ。「イヤいまの金烏玉兎のいちゝんとハ。お目録の中にある。三宝のこゞ松のかゝと。玉兎とハお月様の中にある。三宝のこゞ松のかゝと。玉兎とハお月様の中に降をたく売。月日妓売るせゝ。そ巻物。天地の間ふあらゆる事が知るまものといふ源吾が「ハテ心得ぬ。阿方と思ひあるさゞ口ふ。扨どろ入多ある今のことぞ。扨に頼人が宿て云のが胡乱な奴とゆふ家来も物ずき「いや組ぬ旦那の仰ぜ通り。左世上のこ供ふも。四ツめつで六一をいつゝたり。かひぐひをもるもあれど。芸ゐ格別。冬まで奉公の志ゝゝふハ。大食を喰ふ斗りとゆつゝふ。さんざる奴まけ出ゝゝ。ト笑べば源吾まめふゝ。「月日ハ異名をいきまく。天地の事を志るせゝ書とハ。伝授松のそふがをゝゝそいるものゝ。この一巻ハそんな物でふん。松「イヤ此松のそさゝぬそのまゝ松。主をゝえさゝバ家来も愚ぬ日影者。艱苦の中ふふ

そ〳〵あるもあるぞ。中間あ
はるひと。呼ふやそごん助が。金烏玉兎の一巻とりひろ夫と
かゝるとほる仕場のあるあ。我名をかり母兎の。源「十二がなんと此
源吾が懐中ふあるもの紙きんう玉兎うんぞとぬうと遠国
山ざかの下住みりこゝ大ざうがう
ようも。名ふ〳〵あゞまれ大江戸の名物。何がござふとふこと
さ。ぞ〳〵て我がおるものう。ぞ「イヤそれハ何のようやをとい事。
何のるうと問おありませ源「ムゝそふるれバ問ふあり。天一本四文
こつの事。覚えておるうぞん「ハテ知てさう。天神七代いおぢつゞ飴。
源「今〳〵人形のそでまつ。ぞん「西のまの傀儡師といゝど行田
の芝居を始とをる。源「ヲゝほまび〳〵かふこそえさう。酒呑こふ。

ぞん「肉摸上戸さうめさ佛。源「あるねく世間でいやがれふ。
ぞ生れつゝさる生賀大酒。源「ムゝふゝふゝ。ぞん「けもうさう。いつもさ答
る。源「みそをとりぐ〳〵といつふるふ。ぞん「大まさん捨ま
ぞ紙着るぞ字ふ角れ字消
源「夜ハあの酒の着ん妻ぬんぜ〳〵おをおとして芸ゆつう
そでめさうゝゝあんぞうけ去んをきるいうおく合せ〳〵結
あたゝゝ、あ月あつの大福院ぬんふおくおでんもそまくふ。
色そ味るもそれ団数そ
三十文第漢のそでめさうをあの白ざけ順
郷八廓の帳の員已。あのつゞ合物るんでも四文者文降に
きさうぞめちぞうさ降の塩うれ。のぞれちきの大本之の。

ぶくこのちをとひ大ゐ國ふ
ぜん　同かあの雪ちうちやの裸山み
ぜん　今辻〳〵でちうくの哉妻。あゐ國ふも生てゐる
浄瑠り　てんぷうみせの始りへおめ
ぶ。あへ記ゐみ乃の寺第ち
十記文。ぜん松ち紙ふさ
麩志んさの皮づみきんさん
のめりやう眼で志つとぬんづけご二合まの雪花
我こそ柔ぶちおゐ産ご同志女部へおくが仲間の志の狐
ぶごのご狐むふ記ゐ玉皮ぬりと生て。

ぜん　あるのうなぎへゆーほの坂下。ゆりこが志ゐつーやう。
浄瑠り　宗かーまんふ語るみ。女
源　さて田楽へ。女川ぶちゞあゐ。
浄瑠り　イくやいやく主腐に大そんあげむにやこの通仁。雉のこく
志う白雪と志ゐ玉られとはふ生間法弁志りくく
料理へ百川ちゞまま。梅をもつ毛皇ふ始る。
源　サくまうつちうのだんごいふ。ぜん　支へ生志ゑ地ふそゞまる
浄瑠り　鳥城のよごい山根の本の茸おりにけーさみなく名物
食ものいちくふ。同ふ志ぐごひぜんゆ。阿房ふにをりそゐに。

そう成かゝる処へ。そばよりあとうろ〳〵のぞきてゐるやうすは。
かうもつぎえてかくそうなうけ里。

柏ちにのぞく〳〵松井の源吾。うう亜さうぢ〳〵と申ふ。時多の
猫楽平。松の曲義。漸ふ勿づ丸。曲「ナントおはな平。掌に乗よさの
なん。おゝぶ図那。いぢのきてるのぞくひおばて〳〵。こる「るるわど
きよく義のいさみう。狐がはめさうぢ。丸頂のそ包と
いひ。ぞうでもうぞだくさのあゝぐ。ト「いふ源吾も「いう孫ナア。
怪〳〵の此奴。まづこのつゝかぐ立かる
をぴ。きづんでた右へめんどうくせ。松の家成うしろふさこ入雁金
のめくさたゝくゐへ。中をさんで軍助が。常駄天ぞ〳〵たゞけ
来り。軍「ヲりやく〳〵ぞん助。主人の身の上事きひより。松のそ枝の

ほ供〳〵て。そうくと事をいつてそ
逸亜そ〳〵ぢ也く。「ヤアぞやまの内さう
せんと。主従ぬきう亜切てかゝる。軍「イヤこちより。山報御と。
刀持つま成「下はうこ。そぐにめどう振まわせバ。大勢が逃る成ゆくに
松井は源吾。逸足出せバ。
(六)善悪成照ら名鏡の光りは
おそら色ふむさ〳〵野の萩薄
そや入相のたそが亜ふ。時分かなうと角右ゑ門。ぢう付そよ
勘八藤内。「イヤ主亜親方。あわうめとあるぞそ。大ぢなめふ
あひまく。さぐ仕むさ〳〵野〳〵ろふぢれりの。るんでを
切つさつて。角「コリヤ琴がうる。ぢよふづ亜でも。たぐの内

らでいるのゑ。ごつぞ仕様があらふとおりひ。浦吉屋と云
合せ。迎ひを遣せて服乃くおでん生〳〵それバ結ぶめも軍助
も別亜〳〵。どつでも仕ろ〳〵ふつ紙だて仕掛ひ。松れ
茶ハ。浦吉屋へさ〳〵生せバ。そつぶんとそたらけく〳〵 ホン三坊ハ又お沢ざけきつのひ。アと向ふ
見そろハゑ〳〵ひふ侍従。ゆり亜〳〵てうしろ〳〵 ト云 コリヤせついては
ひ紙ふそんぞる。マア昭亜てトるりのごも。根笹うや原生え
ぎぶる。葛の茎ふがぐ亜。草がくれ。思びて書紙伺ひ居る。ま後仕
ふ外ハむごとも知らぬ野乃狐さで一人り。ほぐつた速ふ鳥眼の
病ひ。刀を杖ふそこ突と。羽ぐ亜人を張るりさ。余亜をそぐ
かるそろびるひ。 アごつぞ寿ひ茎ひさりのごやぞ。何人も

そのひ。野乃系。坊りくハ周囲うそ
そを坊〳〵ヨけて。三人伺のさ
寄亜どもそ亜と志つぐ亜ぐさ。 ト云 若の人。私ハ仕
ろぶ。たつて二人りでそして又。刀紙杖ふ
病でも坊ろこのろ。 ヨハく
つ亜ふそぐれ張ま生うふも
強ふ招病の病ぐさ〳〵坊そ
そらぐ坊くりてかりませそう
まそぞ。あのめどそろもゆぐ
ゐそそぬ。 ト イエそのゐうふ

の人身の上と。かそちり先。草の茂
ふ。ハ近所の者。步ハ又亜ハ旅人そう
ふ。刀紙杖ふしてあるろ志ふ。め
ハく。ハ在所のお方でござりまろ。私
ふも夜乃とのひ。東西わ〳〵ぬ仕度生。
ろ。 ト それるぐさぞござんぎ。
 そ亜ハうそぐけるのござる
れバ。 コレお旅人へ。そるそる亜眼ぐ
ゐそぬ。 ト イエそのゐうふもどざりませぬぐ。〳〵そ坊で

ぶざうまるそ。「えゝそんなうるおぼろげをひろふ。トあまをとつて引まはせバ。佶「アヽ是ハおそろしきるのでハござりませぬか「何さおろかもさ〳〵一疋の魚狐。是ぞ田てさその沙汰でふ。六道の辻番へうぬが命を佶「ヨリや何とぐ。トゐてるげ。佶「そ扨いうぬふ退さぎしやるの。角「インニヤ退さぬでふるん。さいぜんうら同のうの鳥をまつて居くふよくまさ。佶「ヤアさうかい孝ふ角右衛門。あの多ふ詮義がと立うる。「さうハさせぬと女人ぐ。とうほく膝をぬうぜもあうせぞ角右衛門。諸豆なぐるバ侍従之助。ころぶ取打。むざんといふも隙りるり。佶「ヤアきうう角右ふ。そざんねんや。ううふふるとおうもぞして。計畧ふのせうるてる。

何をいつも同ぶあきさへ。雑眼ハ何の肉景ぞや。神仏みも見放さるゝ。匹夫下郎のくまふかるがひそ角「イヤ知ぬでるん。下郎でるん。常陸の大掾百連が孫。横雲次郎景逸とは蕃椒の惣太とそ。人買の頭とそ。吾妻くでる。身ハ山椒の上を行。あるぞ事ぞ。勅勘うけて吾妻の堤ふて。白引する小躰め。たゝき殺して知つさうな。ヲヲ怖。鏡を取持〳〵さゆる。の法を行ひ。狸の角右馬つとも出世を祈ぐんさあ。文福いでふ。吉田ふ縁ある侍従くるバ。たゝきころをかりるバ。言てきさと。焔魔の廳のうりたくみ知ろげやい。佶「サテハ松の葉が分梅若を殺〳〵うもあの通ぶるぞであつさうる。それ

敵さへ討るゝのゝるゝぬとらへ只横に。我も鹿島の神祇の司。
日おろ〳〵念ずる月よみ日よりこそ。赤童子の加護もるのう。せめて
一ト太刀。ト切うけるうちねう〳〵。きう〳〵を一ト當。ウンと斗りふ
いきるゆる。時ふふ〳〵ぎや満月の。光りも四方ふ曠〳〵と。
そよろあるぬ白兎忽然とあら〳〵ふ〳〵ふ〳〵ぞ〳〵て
角右衛門。「軍助がまてふめんぞう。松の多ふ海老のまふふ。
又仕損るもろ〳〵せさう。「イヤ是ゆ〳〵ら。シテこうのそまのふ。
角「ハテまづ息があれば後日の恥辱。ざまをさ〳〵てそれ
さうよう。野中の井戸へぶちこむ立面。「ヲゝぜうてんトたちよる
二人り。そのまゝそこへ。頸轉倒。足下ふふこがたる
形相。角「イヤうぬふ空死ひろのぞうト刀ぬくまをそうと

おさへ「ハテ不思儀や。今のんぜろ〳〵たる事ふ。夢ともなく幻
の女房。我ふ告〳〵ふぞるぐ〳〵尋ぬ来り。ると。此身を知ろ
れ〳〵其上あて。ぬさぐ人岡ふ六ツ。五万五千の眷属ゟ
踏まゐ。おまつさへ畫未来際畜生界を生ずるぬ。其くろ
みふへがう。名残ふつゐぐ〳〵さうなのぞう。見ろふ兎びど此急難
こうれまるこふ夜ゟへぐるゆゑ。人ゆも難瞰眼の病とふ兎ふ畫
ゟへぐて夜ゟろう。我通力ふて平癒させんと。い〳〵と
思へばたちまちふ角「さそんるろうぬがまるふふ見えまのう。
佶「ヲゝ富士山の絶頂を蛙の這て
ろちのりの。ごふもこのつもふん念ひろげ。ト裾ゟろげ
角右衛つ儀へまをさ〳〵入て引生を鏡。ゐじとあろそふこん競。

野中の井戸へさら〳〵と落ちる。ちる紅葉かな。
左右ふうけ。横ふるぐるぶ〳〵一人りハ肩先。一人りハ眉間の大疵。
日頃ふ似合ぬ早業ハ鬼やカを添ぬくん。そげ〳〵のりくほ
働ふ。コハやるぞ〳〵と角右衛門。祕印を結ぶ。狸の幻術。形代
陰を雲うとみ。めうたまうとみけぐを苅内。たゞ一ト打ふ
うしろ袈裟。ざつさり切こむ井戸の中。ふ〳〵ぎや。俄ふ水吹
あげ。そなぎる中ふ名鏡の。おぼろ〳〵ゆる松が枝ふ光りを
そるもち飛ぞと見へ〳〵が。さも白昼のごくるり。かる折ふ〳〵
松の家娘。そ〳〵まありそ。「ヤアこざれるう仇を極ハ何る。ト
いへバ侍従もきろと見をつけ。「誠や名鏡の徳そる事。
闇夜ふうのせバるゞ。日ふもうへバ月の光を顕をあ名。

満月の鏡とうや。今の血〳〵ほの穢あて。光つ紙貼〳〵を松が
枝ろ。鏡ふたゝふこれをそう負らバ升梅若が。肌身をそるさぬ
家の宝。そ〳〵ハざふつそな「イヤその松ふハ遅そのる。内侍取の
御鏡さ。女官の袖ふこぞるうぬふ。たゞ〳〵紙こそれそる
たの。松「アイ心得ま〳〵たとち立とうそて。
武蔵野のありう森の井もあるものを妹〳〵をつまふ亀
袖をかさも〳〵その上へこぞそ名の枝の名鏡ハ。うつらせのふ
そ有ぐそ。此神鏡のまふ入る事。ふさびおことを吉凶の
家。ゼヒ妹〳〵やありがそや。ト松ハ松れ柔侍振ら助。これふ
けけても角右門。遠くハ白うび遅うぬん。「そふふるうぬと
勘ハがそう分脱を振さるの〳〵をぐれそのまうそまろう。

添を幕のて追て行。

㊐狸の幻術あらう秋の堤舩

曙ぎあの鳥ハ鹿嶋ゝ利生

調布やさゝを垣根の朝霧を。はら〳〵ぬきとめ玉川の岩ふ
みとゞろく繋ふ松。むらさめそゝぐ笛火ふ。雲間の月ゝ彩
かさを取もがなと角右ヱ門。漸こゝに逃きたう。見れバさのミひ
かゝと舩。まてしばしきたうけれ仕合せと。夢をうみ。角「急ゐ有て
通るもの。舩ちんハ早ゐと。向の岸までのせてくれろ早ゐと。
をゝさわぐふらんバ舩長笠かぶりて。ぬつと出る。玉川砂利ふ蒲本田を積令み〳〵る土舩。あ揚せぬ
うちいつる事。うとうふりませぬ。角「そこれ迄バ着〳〵の内。

笘を被と生ゐうう。ト遠慮ゐくも飛のるぞ。否とも
いふまで舩人ハ。ぐん〳〵夜明まで待うちも舩ふ大ゐ敗が多い。
馳走ふ熟〳〵して呉んしやうう。ト舩床の小竈。火を吹たてバ。
角「ア、こゝく生ゐたうのそうでもちつとつゞ迎。草のけむりふ角右ヱ門。あゝやたちまち
身をふる〳〵。くる〳〵ゐるぐうふ那月ん合せ。角「ヤアあの狐ハ純助。
ぞ「〳〵いつわやあのぶ。あの乙狸の幻術を以て。人ゐるやまを。
共術を褒くゐ。武義助の原ふ出生〳〵ゐる。蒲公英一名を
鼓草とのゝ。是ふ八丈ようう渡ゐ〳〵。金仙花をまぜて焚く
時ハ。忽ちその術きえうせると神のお告あらたなり。罠ふ
うつゝ狸の角右ヱ門。正躰をあらゝを目前の奇特ハこれト

又打こわ。めえところのふに七顛八倒。かげうあくぬう古狸。虚空ふ飛で失ふろう。角「エく口惜〳〵や愚な汝が計略ふて。年来なつ〳〵我大望。成就せぬう残念や。せめてあの玉を脇のせふ。ト打てうる紙刀をかうせば。友細切れて沖の方。ヌきうつつをを攫みてうけ。手変万化とそそくく丙。次升ふ沖へ生れの中へ溢るるみそふ。註方つれ〳〵角右ゑ門を。諸膝うぐ玉まろそうさ風。川へざんぶと落入るを。攫取直〳〵つづけうち。うなをそひるまぬが如くやもの。刀そそくまふ元の峯。游ぎ行る折そこにかけきそる住吉松の葉。右とたうく立まふう通〳〵ふせでとつめそる。ざん助私よりも二人ともよこれへ。ぬけがれ角右ゑ門。荒ごる〳〵ふふうそうてあいこ。年来の仇がえ。

いそぐよふお討うそ玉。心がくそふ松井の源吾め。さいぜんの一巻そうそう。軍助ふ力を添んト。いつ間もそくふ玉川の。早秋を汲る浪の上。そうる鬼の月影ふ。星のとぶようそやうろる。神力應護のそうこぞと。心ふ好びる紙もつめその本名ふ横雲次郎。おのまの名年月のかんる苦労。家岡の仇そづうろ君ふ弁の敵。ざんぶ勝負〳〵。角「ヤア小ざう死敵味ひう。二人りとも此世のひ限三途の川までも行ふ。ト刀おふり切てかる。両人そろえ余うぐりに上阪下阪。そをせんどトそそうけごとも。太刀先弱くかそう疵。あるそそる紙ひそ合ひ。一念方れ通〳〵てや。仇ふひらりて打そ刀に。肩さ玉きられてだちろぐ内。そそそぞようて松のまふ。ありひそ玉やとうそうれやれぞ。

倒とまろぶをおそしも立ぞ。そでを一度ふ夫婦がよろこび。一下臥あつとつくあふ。間迎くゆる多くの人琴。又るふるふとおどろけば。さるにして軍助が。松若君を脇ふ抱上ふメくるそろ帯ハ。平安弦護の木綿袴。烏帽子白張ゐりみて。日の本鹿嶋の鳥の万度。かの一巻をもとび付。いさゝふ勇む大音あげ。軍「大宮司の仰をうけ。末社の宮邪る祢宜ら。ぬるぬどりのもぐさにやら〳〵。海老をいけどり一巻を大集ひかへ〳〵。さくる家来のやうふハ。めん〳〵得まうる六〳〵棒。神通流の奥のまをあて打ちらし」ル。ト御前ふ詰きさゐれば侍従之助ハ喜悦の眉。まさびをふみる式一巻。二品の宝揃ゐる。吉田。待宵。両家のそうぞく式上やあるべき。ト言葉ふるゐく

収びの。中ふ源君ハ寓ゞをを見」。「ヲヽにそや残念や素奴めとあるぞそ。計略ふのせゝれくさろ。よゝく此方ふも手段あり。ゐくふゐあをくそろまを。図ふ物ヲ〳〵ん。ト〳〵こるる。通ゐる夢の石踏久せバ。下ふ仕ろみ〳〵相図の狼煙。立とひとそ〳〵く茂木のもと。馳あるまり「大勢ゞ。あまさゞ〳〵ものと。鉄炮の筒先そろえて立向ふ。何とま指もあろふぞや。俄ふふりくる大雨ふ。扨〳〵火縄もきえうせて。ころゐく芝ともいふぞろを。見あぐる空ふぶん助が。かくちハ月の桂雄う。奇ろる姿ふあろ〳〵是ハ〳〵が「ヲヽ善哉〳〵吾ゞ。未社。月よみの宮の神霊也。仮ふ汝が下部とろり」も。国家安全の守のそゐ。文福が狸の邪法も。ろど神力ふ勝ぎそや。

怨敵さいさん〳〵。住〳〵アア有がてやかてけるや。笠よう直ふ
隆を者へのがう。松若諸とも家内〳〵。松井の源吉が罪科は。
大内の沙汰ゆまうそべ〳〵。トいつふ軍助「げふまことに夜明けも
ちど」その御立。松若君ふ御夫婦へ。三足そろふ鳥の万度。
やごそ日の出の御おとぎき。道のあるまへ空ふまぎ。二千里れ
外。もさ〳〵けく。月の兎をうさぎときそ。信田の森のふるまた。
書写〳〵なる筆の跡。めでたくありける次第也

往昔摸様梅若松下之巻大尾